

第1回 第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会 議事録

1. 日 時 令和3年10月19日（金）13：30～15：45

2. 場 所 リモート及び加賀市役所別館304会議室

3. 出席者 委 員 5名

（委員長） 坂 本 英 之

（委 員） 佐 藤 留 美

田 畑 智 日

辻 寛 子

山田 真名美

オブザーバー 3名

稲 田 純 一（代理 芋 瀬 英 里）

餘 久 保 陽

平 田 浩 一

事務局 5名

加賀市建設部都市計画課

4. 次 第

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 委員・オブザーバーの紹介

4. 議事

- ・第1次プランの実績とみどりに関する現況と課題
- ・ヒアリング結果
- ・テーマとコンセプト
- ・アクションプラン

5. まとめ

6. その他

- ・今後の予定

7. 閉 会

5. 傍聴者 なし

6. 議事内容

◆事務局

只今より、第1回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を開会いたします。

委員総数5名全員にご出席をいただき、「第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会要綱」第5条第2項の会議成立要件を満たしていることをご報告いたします。

開会にあたりまして、加賀市長 宮元 陸がご挨拶申し上げます。

◆宮元市長

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

加賀市ではガーデンシティ構想を策定してから、かなりの年月をかけて、ガーデンシティを目指した取り組みを進めてきましたが、加賀市に来ていただいた方に、これは良いと思っていただけるようなところまではまだ至っていません。ガーデンシティ構想を思い立った一番のきっかけは、シンガポールへ行った際に、まち全体をガーデンと見立てたまちづくりを見たことです。加賀市は観光地でもあり、人を呼びこむことが基本なので、このようなまちづくりを目指したいと思い、進めて参りました。しかし、形としてはまだまだ未完成の状態なので、今回は第2次ガーデンシティ構想として、より具体化させ、多くの方に加賀市を訪れ、素晴らしいと思っていただけるようなまちづくりを行いたいと考えております。加賀市全体を手直しすることは難しいと思いますが、ポイントを絞って見せ場を少しずつ作っていくことも大切だと思いますので、これらも踏まえてご意見をいただきたいと思います。

◆事務局

議事に入る前に、委員のご紹介をさせていただきます。

まず、本委員会の委員長をお引き受けいただく、金沢美術工芸大学名誉教授の坂本英之様です。

◆坂本委員長

第1次ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会で委員長をさせていただき、それに引き続き、今回も委員長をさせていただきます。私は金沢美術工芸大学の名誉教授となっていますように、2年前に金沢美術工芸大学を退職しており、今はフリーランスとして活動しています。都市構造を専門分野としていますので、大きな視点で見たいと思います。

ガーデンシティ構想に期待していることは、歴史文化、自然環境といったもののお手本、基礎となる計画を定めることや、市民と繋がる1つの要素として、コミュニティの活発化等に繋がることです。

好きな公園は、山中温泉の鶴仙溪や山代温泉の萬松園、片山津温泉の柴山潟です。加賀市は自然の豊かさが基本となって温泉場が栄えた面もあり、それらに磨きをかけていけばガーデンシティとしての魅力が増していくのではないかと思います。また、金沢市にある大乘寺丘陵公園も好きな公園の1つで、散歩で訪れると、多くの人々が公園を利用していますし、汗をかきながら公園の丘を登ると、素晴らしい景色を眺望できます。現在は生涯100歳の時代も迎えていることから、健康の面も考えた公園があればよいのではと思います。

◆事務局

次に、NPO birth 事務局長で Green Connection TOKYO 代表理事の佐藤留美様です。

◆佐藤委員

私は、緑の中間支援組織として主催している、Green Connection TOKYO の代表理事及び NPO birth の事務局長として活動しています。主な活動は、ガーデンシティやロンドンの自然と人が共生できる社会を目指す方策であるナショナルパークシティ等の国内外における先進事例の調査や実践による緑地の保全活用の他、公園の指定管理を行っており、現在都内 72 公園のマネジメントに関わっています。また、このような実績や経験から方策の提言をしており、現在、国土交通省のグリーンインフラについてのプラットフォームづくりや、環境省の生物多様性の向上などの取り組みの他、それらの施策の委員としての活動も行っております。

ガーデンシティ構想に期待していることは、今あるグリーンインフラの価値を見直し、ポテンシャルをまちづくりに活かしていくことです。ガーデンというものは、花だけでなく、既存の公園や緑地、庭園、寺社仏閣、民家などを繋ぐだけでも素晴らしいものになり、点から線、面として魅せるだけでガーデンシティの名にふさわしい都市になると思います。私は、国交省のガーデンツーリズム登録制度で登録された武蔵野地域の運営に関わっておりますが、武蔵野では協議会を作るなど事業を行っており、産学官民でガーデンツーリズムを推進しています。市民と協働で施策を推進する体制の整備としては、様々な器となる緑を見るだけではなく、教育や福祉、観光、アウトドアなど様々な分野を横断したネットワークを形成すべきです。また、加賀市は消滅可能性都市という課題を市民と共有し、緑があることが地域の一番の誇りとなり、訪れたい、移住したい、まちへシフトさせていくことが必要だと思います。加賀市へ新しく移住した方の話では、加賀市には本当に魅力があるとおっしゃっていましたが、こういった方々に加賀市について聞き込みをすると、新しい加賀市の目指す方向性が見えてくると思います。若い世代とまちづくりのプロジェクトを協働で進めること、スマートシティ、スーパーシティについてのプロジェクトも考えられますので、デジタル技術を緑の保全、維持、活用や観光も含めて活用できたら効果的だと思います。

加賀市の好きな公園ですが、加賀市全体がガーデンパークだと感じました。

◆事務局

次に、かが緑化研究会会長の田畑智日様です。

◆田畑委員

現在、私がかが緑化研究会の会長を務めていますが、当研究会は営利団体でもあり、庭、公園等の管理を加賀市や市民から委託を受け、営んでいますので、樹木に関する知識では多少お伝えすることができます。

ガーデンシティ構想に期待していることは、加賀市民が見ているベクトルを 1 つにすることです。金沢市でいうところの兼六園のような加賀市の目玉となるものができるとういと思いますし、市外の方が加賀市に来られた際、加賀市民全員がここに行ったらよいと言える場所が 1 か所でもあるとういと思います。おそらく、市民全員に良いところを聞いたら全員バラバラの回答になると思います。また、加賀市には緑を管理する団体がたくさんありますので、それらの団体から波及して市民の意識を改革していくとういと思います。

好きな公園は、橋立自然公園、鶴仙溪、かたらいの広場、柴山潟湖畔公園ですが、これらはいずれも四季を感じることができる公園です。私はシンガポールへ行ったことがあります、シンガポールと加賀市の大きな違いは、シンガポールは1年中同じ気候だということです。加賀市には四季がありますので、四季を利用することはガーデンシティの中では外せないと思います。橋立自然公園は、夏になるとホテルを見ることができ、園内を歩くと新鮮な気持ちになりますし、鶴仙溪は秋の紅葉がとても綺麗です。また、柴山潟湖畔公園は白山の眺望がとても綺麗ですので、ブラッシュアップすればさらに良い公園になるのではと思います。加賀市役所の前にあるかたらいの広場はそれほど大きくありませんが、子どもたちもよく遊んでいて、管理も行き届き、水の流れもあり、様々な魅力が凝縮され、現代にマッチングした良い公園だと思います。皆様、お時間があれば是非ご覧ください。

◆事務局

次に、日本ハンギングバスケット協会ハンギングバスケットマスターの辻寛子様です。

◆辻委員

日本ハンギングバスケット協会のハンギングバスケットマスターをしており、昨年、地域のお花好きの方が集まった、はなはな加賀の会の代表をしています。市内にはお花が好きな方はたくさんいるので、花に関する講習会を開催するなど、もっとお花好きな方を増やし、加賀市がより綺麗になればよいと思います。昔、加賀市ダンドスの会でカナダへ行く機会があり、ビクトリアのまちを見たときは、お花でお客様を迎えるということはこのことだと感じるほど、素晴らしいものでした。加賀温泉駅前をお花で綺麗に飾り、お客様をおもてなしすることで、お客様がまた行きたいと思ってもらえるので、ボランティアの力を借りて加賀市を綺麗にしてみようことも必要だと思います。

加賀市は良いところがたくさんありますが、例えば、源平橋や片山津温泉の総湯に浸かりながら見る白山はとても綺麗ですので、このような良いところを皆様に確認していただきたいと思います。最近、柴山潟湖畔遊歩道が完成し、柴山潟周辺を散策できるようになりましたが、加賀市民でそのことを知っている人はとても少ないです。小松市の木場潟へ加賀市の方がわざわざ訪れると聞きますが、柴山潟についてももっと市民、観光客へアピールするべきですし、外から訪れた人にどう感動を与えるかは大事なことで、皆様とともにやっていきたいと思います。金沢市の南総合運動公園にはバラ園があり、年間何万人もの人が訪れるそうです。大聖寺にはバラ、山代には紫陽花など、各地域に1つの名所となる公園をつくってはどうかと思います。加賀市は観光客が来てくれることが大事ですので、こういったガーデンシティを皆様と考えていきたいです。また、国道8号のお花はすごく綺麗だと評判の声をよく聞きますが、沿線事業者の方にお世話をいただいているおかげで、いろんな方にそれを見ていただけてよかったと思います。次は加賀温泉駅前をお花でお客様をお迎えしたいと思っており、ボランティアの仲間と協力させていただきますので、皆様には是非お力を貸していただきたいです。

◆事務局

次に、公益財団法人あくるめ事務局長の山田 真名美様です。

◆山田委員

私は加賀市をフィールドに活動しているあくるめ財団の事務局長をしています。あくるめ財団は加賀市の子ども、若者、そして地域活性化を支援している公益財団です。地域の財団が地域のことを支援し活動することは世界的にコミュニティ財団と呼ばれており、そのコミュニティ財団として地域に根付いた活動を行い、助成事業、教育事業、子どもたちを対象とした自然体験事業、まちづくりに関わりたい市民に対し交流事業など様々な活動を行っています。個人のライフワークとしては「加賀ぐらし」というローカルメディアを運営しており、地域で面白い取組みをされている方などに取材させていただき、ご紹介しています。余談ですが、私も子どもの頃、シンガポールに7年ほど住んでいた経験があり、シンガポールの緑のある暮らしがとても好きです。シンガポールと全く一緒にする必要はないと思いますが、加賀市の緑のある暮らしを皆様とどう楽しむかということを考えていけるとよいと思います。

好きな公園ですが、私は朝に白山眺望広場や柴山潟湖畔公園などに行き、お茶を飲んだりコミュニケーションを取ったり、朝活を行うことが多いです。このような暮らしの豊かさを皆様と共有できたら良いと思います。

ガーデンシティ構想に期待していることは、観光客の方が来て驚くような美しい景観整備はもちろんですが、一方で地域の皆様が加賀市の緑をどこまで楽しめているかというところが気になります。空き地や使われていない公園、耕作放棄地を自分の庭や畑にしたり、暮らしのスペースを拡張するようなシーンがガーデンシティ構想の中に生まれてくれたらよいと思います。最近、あくるめ財団でも、まちで活動する人をいかに増やすかということを大切にしています。人の繋がりを生み出す場所というものは、会議室や美しいだけの建物からは生まれず、屋外の公園など、外にこそポテンシャルがあると思いますので、ガーデンシティの取り組みは大切な取り組みだと思います。私のまわりでもちょっとした原っぱや空き地を上手く使って暮らしを楽しんでいる方がたくさんいますので、そういった方々のシーンについてもご紹介できたらよいと思います。

◆事務局

次に、オブザーバーの方をご紹介します。まず、株式会社ウイン代表取締役で元シンガポール国家開発省国立公園庁 計画開発部長の稲田純一様です。本日は代理で株式会社ウイン国際プロジェクト担当ディレクターの芋瀬英里様にご出席いただいています。

◆芋瀬氏（稲田オブザーバー代理）

稲田が出席させていただく予定でしたが、どうしても外せない体の検査があるため、今回は代理で参加させていただきます。稲田は1983年から1994年までシンガポールの政府側としてシンガポールの国づくりに携わっていました。先ほど市長からシンガポールのガーデンシティに思いを持って加賀市のガーデンシティを思い立ったとお話がありましたが、市長がシンガポールで来られた際にシンガポール側として稲田がいろいろ説明をさせていただき、昔から縁があると聞いています。加賀市とシンガポールでは気候も文化も違いますので、そのまま同じものをつくるということはないと思います。シンガポールは緑を取り入れてネットワーク化し、パークコネクターと言われる場所と場所を繋ぐといった取り組みがあり、単に緑が美しい、綺麗ということだけではなく、快適性をいかに市民に提供するかということで整備しています。こういったことも、加賀らしい風景、景観になるような緑のネ

ットワークづくりの参考になればよいと思います。また、加賀市には鴨や蟹、地酒などの特産物がありますので、それらの魅力も繋げていけたらと思います。

ガーデンシティ構想に期待していることは、マスタープランのような全体プランを前回まとめられていると思いますが、もう一度加賀市の魅力を見直し、ガーデンシティ構想のマスタープランとして作成し、より実現可能な詳細プランを考えてみてはと思います。

◆事務局

次に、国土交通省金沢河川国道事務所事業対策官の餘久保陽様です。

◆餘久保オブザーバー

国土交通省金沢河川国道事務所事業対策官の餘久保と申します。よろしくお願いいたします。

◆事務局

次に、石川県南加賀土木総合事務所所長の平田浩一様です。

◆平田オブザーバー

石川県南加賀土木総合事務所所長の平田と申します。よろしくお願いいたします。

◆事務局

それでは、検討委員会要綱に基づき、これよりの議事進行を坂本委員長にお願い致します。

議事 1 第 1 次プランの実績とみどりに関する現況と課題

◆坂本委員長

議事の 1 つ目「第 1 次プランの実績とみどりに関する現況と課題」について事務局より説明をお願いいたします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

ただいまの議案 1「第 1 次プランの実績とみどりに現況と課題」に関して、ご質問、ご意見ございませんか。

◆佐藤委員

たくさんのガーデナーの登録や育成を行っており、人づくりに力を入れたことはとても大きな成果だと思います。加賀市の景観、風景は 1 つ 1 つは素晴らしいですが、加賀市全体をマクロで捉えたときに、ランドスケープ的な風景としての素晴らしさを感じにくかったように思います。駅に降りたときや車で来たときなど、マクロの視点の景観づくりを 1 つ大きな計画としてもよいのではないのでしょうか。加賀市は素晴らしい緑と歴史的な景観もあり、人と自然が一体となってくつてきた風景がた

くさんありますので、場所ごとにミクロの視点による PR や、それらの風格や地域特性を活かした景観づくりに加え、マクロとミクロの視点を組み合わせたメリハリのあるプランが必要だと思います。それぞれ素晴らしい場所がありますので、各箇所の点を見える化し、線として結んで、そして面にし、全体の市の風格を表した方がよいと思います。ヴィジョンとなる市の方向性について、もてなしガーデナーや観光業に関わっている方、事業者の方に理解してもらい、何ができるのか話し合い、それを計画に反映させていけばよいと思います。

◆坂本委員長

佐藤委員の意見は大変共感できる内容です。市の方も予算的にも人員的にもこれ以上手をかけられない状態であると思いますので、手にあまっている緑を市民の力を借りて維持管理を行っていくべきだと思います。

◆辻委員

点と線という話がありましたが、作見地区は加賀市の真ん中に位置し、橋立、片山津、大聖寺、山代などどこの地域からも近い場所であり、駅もあるので、作見を拠点とするのも1つの案だと思います。

◆坂本委員長

新幹線金沢敦賀間が開業されるという絶妙なタイミングで、加賀温泉駅周辺の整備が進められているので、作見地区が1つの拠点になると思います。

◆芋瀬氏（稲田オブザーバー代理）

シンガポールは一気に緑でいっぱいになったというわけではなく、最初は国が主導となって緑を進めていましたが、市民自体は緑についてあまり知らないという状態が長く続きました。その後、国が緑に関して強いプロモーションをかけたと聞いていますので、加賀市においても市が主導で引っ張っていくべきだと思います。また、シンガポールでは人が入ってくる玄関口となる空港を拠点として考えており、看板ではなく、植物などの緑の環境で人々をお迎えするような取り組みを行っています。

議事 2 ヒアリング結果

◆坂本委員長

議事 2「ヒアリング結果」について事務局より説明をお願いいたします。

◆事務局

（説明）

◆坂本委員長

議案 2「ヒアリング結果」に関して、ご質問、ご意見ございませんか。

◆山田委員

緑化活動について予算がない中で様々な活動をされており感銘を受けました。一方で高齢化や担い手不足などが課題であると受け止めました。私が知っている事例をご紹介させていただくと、千葉県ではハローガーデンという、「みんなで公園を使おう、実験の場としよう」という取組みをしています。そこでは、おもてなしする人、される人というわけではなく、使いたい人みんなで活用していく公園という形で行われています。ガーデンサポーターという名前でサポーターを募ったり、アウトドアのイベント用の備品を貸し出したり、外で遊ぶこと、外でまちに関するイベントをする楽しさを普及していこうという取組みです。これらの活動は若い人たちにも響くものだと思います。当財団では、まちづくりに関心のある人たちに対し、毎年「かがやき塾」という講座を開いており、今年で7年目を迎え、90名を超える卒業生がいます。30代が中心で若い人が多いですが、下は高校生から上は70代まで幅広い年代で構成されています。彼らは、野外でオープンな講座をやってみたい、青空学校を開きたいとよく言います。そこで壁となるのは、地域の公園を勝手に使っているのか、テント等のアウトドアの備品がないので実現が難しいといった現状です。公園をもっと市民に開くという意味で、若い人に公園に花を植えましようと言っても難しいと思いますが、公園を使ってまちづくり活動をしたいという方は必ずいますので、彼らに対して公園を開いていくようなサポートを行っていただきたいと思っています。それをきっかけに、公園に愛着を持ってもらい、もてなしガーデナーになっていくといったストーリーを丁寧に組んであげるとよいのではと思います。子育てと公園の相性が良いのはもちろん、まちづくりと公園の相性も良いと思います。

◆坂本委員長

先ほどの国道8号のプランターについてのヒアリング結果を見ていると、水の便が悪く、管理が難しいという声がありました。これに関して餘久保オブザーバーいかがでしょうか。

◆餘久保オブザーバー

以前、国道8号緑化デザイン検討委員会でも水道をひけないのかというご意見がありましたが、様々な問題があって実現できなかったと記憶しております。

先ほど点と線という話が出ていましたが、国道8号は拠点を結ぶ線の部分に位置付けられ、点と線では、見せ方は違うものになると思います。線の見せ方では、車窓からの見え方と点になる部分の拠点の見え方は分けて考えるとよいと思います。点の部分で大切なことは、有名な観光地は視点場が非常に充実しているように、見せたいものがあるのであれば木を伐採し見えるようにするなどの工夫が必要だと思います。たとえば、加賀市で整備された白山眺望広場などは視点場として素晴らしい造りだと思います。新たに創り出すもの以外にも、田園風景などたくさんの緑の資源が既に加賀市にはありますので、それらの見せ方を充実させていくことが大事なのであり、また、見る側、見せる側の両方の視点で考えていくとよいと思います。

◆佐藤委員

公園や公共の場所でのガーデニングを「コミュニティガーデン」と呼び、コミュニティガーデナーの養成講座の開催を20年近くやっていますが、活動したい人たちはたくさんいて、活動する場を探している人も多いと思います。まずは活動したい人たちと場をマッチングさせることが必要で、活動のスキルをそれほど持っていない人に、宿根草を活かした手間を減らせる管理方法などノウハウを教

えていきながら、その場の環境にあったものをつくってもらうことが大切だと思います。活動したい人を募集することは、活動したい人が手を挙げて自由にやっていき、若い人たちが活動してくれることが理想ですが、私たちは公園の指定管理で「あったらいいなをみんなで作る公園プロジェクト」というものをしており、あったらいいなと思うものを自由に公園でつくっていただいています。今回のヒアリング先は既に活動している方が多いと思いますが、新たに活動してみたい方を、場に繋いであげる仕組みが今後のアクションプランには必要だと思います。

議事 3 テーマとコンセプト

◆坂本委員長

次の議事、テーマとコンセプトについて事務局より説明をお願いいたします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

ただいまの議案 3「テーマとコンセプト」に関して、ご質問、ご意見ございませんか。

◆田畑委員

資料 11 ページの緑の中間支援組織の役割について、1. 拠点と予算の再分配のところで観光客が利用したくなる拠点と市民団体が管理する拠点と分けるとありますが、どういった経緯で分けられるのか教えていただきたいです。

◆事務局

予算の再配分については、市ではなく中間支援組織が行い、市と市民、観光客との間を取り持つ団体を中間支援組織と位置付けます。11 ページに図で示してあるとおり、中間支援組織は市から受け取った運営代、観光客から受け取った利用料を造園業者やシルバー人材センターへ管理委託費として使用することに加え、講習会の依頼のほか、手が届かないところについては、市民や関係人口にボランティアとしてご協力を促したりなどしていただく形になります。行政だけで管理等を行っていても、緑を進めていく関係者、観光客、利用者等のニーズに応えきれない部分が出てくると思いますので、中間支援組織でそれらを吸い上げて反映していく役割を担っていただくと、利用者側も管理者側もお互いが望まれる姿ができやすくなるのではないかとという 1 つの提案になります。中間支援組織について、佐藤委員が既に取り組みされていると認識していますが、私の説明が不十分であれば補足をお願いします。

◆佐藤委員

私たちは 2 つの緑の中間支援組織を運営していますが、説明していただいた内容は少し間違った内容がありますので、再度、緑の中間支援組織について見直したり、調べたりする必要があると思います。緑の中間支援組織は公園だけではなく、公共地、民有地も含めた全ての緑を活用し、SDGs のウェディングケーキモデルにある生物圏、社会圏、経済圏をパートナーシップで繋ぐ活動をするのが緑の

中間支援組織です。

ベースとなるまちの緑を保全し活用することが必要ですが、加賀市には非常に素晴らしい緑のポテンシャルがたくさんあります。それを放っておくと価値が低下してしまいますので、まずこれらの緑を保全することが重要です。その保全活動や普及啓発活動などに人々が参加したり自分たちで企画することで交流が生まれ、コミュニティが創出されていきます。そこからまた新たなプロジェクトが創出され、地域経済の活性化にも繋がっていきます。持続可能なまちづくりをしていくために活動するのが緑の中間支援組織で、それを実現するためには、市民団体だけでなく、観光業、農業、漁業などのたくさんの事業者の力を借りていくことが必要です。ガーデンという言葉には、お花だけではなく、もっと広い意味を持たせることができ、アウトドアや観光の資源になる公園や河原、森林もガーデンです。緑があることはこれだけ素晴らしいことだとお互い認識する、価値観を共有していく、そしてそれをオーガナイズすることがまさに緑の中間支援組織の役割になります。資料では拠点運営とありますが、そうではなく、緑の中間支援組織はどんなもので、どのようにまちが良くなるのかを記載するとよいと思います。拠点の運営が目的ではなく、加賀市の豊かな緑のポテンシャルを活かして、どのようなまちづくりを進めていくかを、地域の皆さんと話し合い、学び合い、自ら行動していくための伴走者となるのが緑の中間支援組織なので、緑の中間支援組織について整理し直した方がよいと思います。

◆事務局

ありがとうございます。いただいた意見踏まえ、検討を深めながら修正したいと思います。

◆田畑委員

資料4ページの公園マップ上の灰色のマークとなっている公園は、誰も管理していない公園になるのでしょうか。もしそうであれば、こういった公園は今後、畑など利活用してもらう公園にするとうよいと思います。マップ内の山中地区では住民で管理している赤色のマークが多く見られ、山中地区のゆげ街道もしっかりと住民で管理されていますし、ガーデンシティ構想に近いものだと思います。菊の湯広場も今後整備されると思いますが、それも含め1つのまちのガーデンシティとして整備した上で、市全体へ波及させていく考え方はいかがでしょうか。

◆事務局

マップ内の灰色のマークは、現在管理されていない公園です。こういった公園は、昨年度に策定した緑の基本計画では、統廃合を図ることが必要としております。使われているものは、これまで通り残していくべきだと思いますが、地域の方に意見を聞きながら本当に必要かを踏まえて、場合によっては廃止、または、廃止するだけでなく近くの公園を充実させるなど検討していきたいと考えています。また、山中地区をモデルにすることも検討したいと思います。

◆坂本委員長

テーマとコンセプト、アクションプランのところが一番大切になってきますので、今日ここで話された内容を基に、次回の検討委員会までに案を作っていただく流れになると思います。今回の後半で得られた意見を反映してほしいと思います。

◆佐藤委員

テーマとコンセプトは重要な部分になるので、テーマとコンセプトについて議論を深める方がよいと思います。

◆事務局

次回は今回の内容をもっとブラッシュアップし、必要なところを見直したいと思います。

◆山田委員

新しいテーマ案で「新しい、暮らし、もてなし、共有、連携、創造」と6つの言葉が出てますが、ピックアップした理由を知りたいです。「もてなし」という言葉が与えるインパクトというのは一方通行で、サービスを受ける人、提供する人といったイメージを思ってしまう。コミュニティガーデンとして適切なのか伺いたいです。次に「共有」という言葉ですが、これは情報の共有なのか資源の共有なのか、言葉の解釈が難しいと思います。市民でも観光客でもビジネスマンでも行政でも、緑を分け合って使っていくことを新しいガーデンシティに期待しているので、サービスを受ける人、提供する人などの一方通行は気になります。

◆事務局

「新しい」という言葉は、これまでガーデンシティ構想を進めてきましたが、この5年間の中で加賀市はスマートシティを目指す取り組みや新しいチャレンジをしています。これまでの緑化の考え方だけでなく、大切なものは拡充しつつ、新しい考え方を取り入れるという思いから、「新しい」という言葉を入れました。「暮らし」という言葉は、第1次ガーデンシティ構想推進プランのテーマである「ひろげよう 暮らしのみどり もてなしのまち」の中にも取り入れており、暮らしの中の緑は当然大切なものなので、新たな計画にも必要不可欠だと考えています。「もてなし」については、第1次ガーデンシティ構想推進プランでは水と緑による観光戦略の要素を多く含んでおり、また昨年度策定した緑の基本計画のテーマにも「もてなし」の言葉が入っていますので、必要であると考えています。「共有・連携・創造」については資料内8ページにある通り、今回のコンセプトの案としてしていますので、入れさせていただきました。山田委員のおっしゃる通り、興味ある人だけでなく、一方通行にならないよう、広く連携等を図っていきたいと思います。

◆佐藤委員

「ガーデン」という言葉は様々な意味、解釈がありますので、ここでの「ガーデン」についての再定義が必要だと思います。お花を植えることだけではなく、加賀市に元々ある緑、寺社仏閣の森、街並みの景観など含めて「ガーデン」であると思います。

山田委員が先ほどおっしゃっていた通り、「もてなし」という言葉は一方通行だと思います。これからのまちづくりは一方通行ではなく双方向をどれだけつくれるかだと思います。訪れる人が住んでいる人の幸せそうな姿を見ることで、訪れる人も幸せになるといったような双方向が大切なので、それを表現できる言葉が出てくればと思います。

また、今あるものをどれだけ活かすのが大切で、新しいものをつくるには費用がかかってしまい

ます。加賀市にはもう既に緑や人のポテンシャルに溢れているので、活動していただける人とこれからどうするのかディスカッションし、その中で生まれた意見から様々な事業、イベントを行い、みんなで楽しむことが重要です。資料 11 ページの拠点と予算の再配分のところで、観光客も利用したくなる拠点と市民団体が管理する拠点と分けるとあり、お金のものを分けることだとは思いますが、そもそも分けるという考え方自体がよくないと思います。分けるのではなく、観光客が利用したくなる拠点は市民が楽しく活動する拠点であり、その姿を見て、観光客もその活動に参加し、交流できる拠点とすべきです。私もよく海外でボランティア活動に参加し、現地に行けばすぐ参加ができるものがたくさんありますが、そこに参加することで現地の人と仲良くなり、また来たくなる、または移住することに繋がると思うので、それを見据えて、今までの行政のつくり方とは違う次元で計画をつくっていただきたいです。

加賀市には温泉がありますので、温泉を 1 つのテーマにすべきだと思います。まちの中に温泉があることはすごく魅力的であり、健康都市というのは 1 つキーワードになると思います。温泉、緑、海、寺社などへまちからすぐにアクセスでき、美味しい食べ物がある、これらの要素があるので、健康なまちにできますし、緑は心の健康、体の健康の両方をつくり出すことができるので、これについて取り上げていただきたいと思います。

◆辻委員

皆様が加賀市に来て温泉に入って健康になり、加賀市に住んでもらう、この健康をテーマに入れるという意見は素晴らしいと思います。

◆坂本委員長

今回いただいたご意見をもとに第 2 次加賀市ガーデンシティ構想推進プランをつくり上げてほしいと思います。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

◆事務局

次回、第 2 回の検討委員会は 12 月に開催予定で、来年の 2 月中にパブリックコメントを募集したいと思います。委員の皆様にはパブリックコメントの募集の前に、資料を送付させていただきますので、ご確認いただき、ご意見をいただきたいと思います。それを反映し、パブリックコメントを行い、3 月に第 3 回の検討委員会を開催するという流れでいきたいと思いますので、皆様よろしく願いたします。

最後に閉会にあたりまして、建設部長 嶽野 一義がご挨拶申し上げます。

◆嶽野建設部長

長時間にわたりまして貴重なご意見、アドバイスを賜りありがとうございました。2016 年策定した現在の加賀市ガーデンシティ構想推進プランですが、どこに出しても恥ずかしくない、立派な計画であったと私は思っております。しかしながら、構想に対し、実施が追い付かないこともあり、思うような成果が得られなかったのではないかと深く反省しているところでございます。今回の第 2 次加賀市ガーデンシティ構想推進プランにつきましては、2016 年に策定した第 1 次加賀市ガーデンシティ

構想推進プランを参考にしながら、加賀市のガーデンシティの実現化を目指し、観光都市として、また市民一人一人が自分たちのまちに誇りが持てるような加賀市になるよう取り組む必要があると考えています。本日の資料にございました通り、緑化を推進していくためには、高齢化による担い手の育成、持続可能な維持管理など解決しなければならないたくさんの問題があります。今後、第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プランの完成に向け、さらなるご指導をお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◆事務局

これをもって、第1回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を閉会いたします。